修士論文要旨
２０１２年１月

「切る」の意味分析
―複合語の前項に注目して―

指導　新屋映子　教授

言語教育研究科
日本語教育専攻
210J3014
林弘樹

目　次

第１章	はじめに	1
第２章	先行研究	1
2.1	意味分類	1
2.2	意義素分析	3
第３章	「切る」の本来的意味と派生的意味	6
3.1	「切る」の本来的意味	6
3.2	「切る」の派生的意味	9
第４章	「切る」の前提的特徴	9
4.1	前提的特徴	9
4.2	「切る」の前提的特徴	9
4.3	前提的特徴の消失	11
4.4	「切る」の物理的許容範囲	12
第５章	各活用形の調査	12
5.1	「切ら」	13
5.2	「切る」	14
5.3	「切ろ」	15
5.4	「切っ」	16
5.5	「切れ」	17
第６章	複合語を構成する「切り」	18
6.1	「切り」の分布と考察	18
6.2	複合語の前項としての「切り」	20
6.2.1	本来的意味の名詞	20
6.2.2	本来的意味の動詞	20
6.2.3	派生的意味の名詞	20
6.2.4	派生的意味の動詞	20
第７章	「切りー」型複合動詞	20
7.1	調査対象	20
7.2	特殊例	21
7.3	「切りー」型複合動詞の分類	23
7.3.1	非対格自動詞と非能格自動詞	23
7.3.2	右側主要部の規則と語彙的意味の中心	25
7.3.3	「切りー」型複合動詞における語彙的意味の中心	26
7.3.4	語彙的意味の中心性から見た前項動詞の影響力	29
7.3.5	「切りつける」と「ーつける」型複合動詞	31
第８章	まとめと今後の課題	34
資料・参考文献		

要　旨

1. はじめに

本研究は「切る」を前項とする複合語の意味分析を目的とする。

「切る」は、「紙を切る」といった切断・断絶の意味の他にも、多くの意味を想起できる。豊富な実例が期待でき、また、比喩表現も比較的容易に想起できる語であることから、「切る」は観察対象として最適だと判断した。

「切る」は複合語の前項としても用いられるが、「切る」を前項とする複合語に関する先行研究で、管見に入るものはなかった。このことも、本件を選んだ動機のひとつである。

2. 本来的意味と派生的意味

他動詞「切る」について、いわゆる原義にあたるものを本来的意味、それ以外のものを派生的意味とする。前者は、「対象の繋がりを物理的に分断する動作」であり、後者は、それ以外のすべてである。これは、すべての統語規則や文脈から離れ、その語の意味のみから判断されるものである。

3. 「切る」の前提的特徴

影山(1993)による「前提的特徴」と「本来的特徴」について、「切る」における前者を＜対象が物理的、或いは抽象的な大きさを有する＞、後者を＜分断する＞とする。ただし、慣用句や、慣用句に近い表現「慣用的結合」を有する語では、前提的特徴はきわめて希薄となるか、消失する可能性がある。

4. コーパス調査

活用形に分け、コーパス調査を行った。それぞれの特徴のほか、複合動詞の前項となるのは、「切り」がもっとも多いということを、具体的な数的データから改めて示す。

5. 「切りー」型複合動詞

5.1. 前項型複合動詞と後項型複合動詞

「語彙的意味の中心」に注目し、「切りー」型複合動詞を前項型複合動詞と後項型複合動詞、及び対等型複合動詞、融合型複合動詞という４つのまとまりに分類した。前項型複合動詞は語彙的意味の中心が前項にあり、後項は状態や程度、時間性を表す。後項型複合動詞は語彙的意味の中心が後項にあり、前項は手段を示す。また多くの場合、いわゆる「統語的複合動詞」と前項型複合動詞は、同じ語が分類される傾向にある。

5.2. 前項型複合動詞と統語的複合動詞

前項型複合動詞でありながら、語彙的複合動詞であるという点から、上記の傾向に反する「切りつける」について、後項「つける」が有する接触の意味は、「切る」の印象にすでに含まれているため、複合語全体においては、状態や程度を示すものに転化すると考えられる。後項がそのような性質を持つということは、先述した前項型複合動詞の特徴に他ならない。また、「ーつける」型複合動詞が語彙的複合動詞であることは、「つける」の生産性の限界から明らかである。このことから、統語的複合動詞と前項型複合動詞、ひいては、それぞれの分類方法が生む結果は、正確に一致するものではないということが分かった。

資料

国立国語研究所　「現代日本語書き言葉均衡コーパス」

参考文献

青木博史(2010)	『語形成から見た日本語文法史』ひつじ書房
影山太郎(1993)	『文法と語形成』ひつじ書房
許永蘭(2008)	「「切る」の多義分析」名古屋大学
国広哲弥(1982)	『意味論の方法』大修館書店
国広哲弥(1997)	『理想の国語辞典』大修館書店
小松寿雄・鈴木英夫編(2011)	『新明解語源辞典』三省堂書店
新村出編(2008)	『広辞苑 第六版』岩波書店
西原一幸(2009)	「実用日本語語彙から見た多義語 ： 類別再編、現代実用国語辞典 実用日本語の語彙と文字・表記(4)」金城学院大学
姫野昌子(1999)	『複合動詞の構造と意味用法』ひつじ書房
堀井令以知(1983)	『日本語語源辞典』東京堂出版
松村明編(2006)	『大辞林 第三版』三省堂書店
松村一登(2007)	「複合動詞の生産性といわゆる「統語的/語彙的」の区別 ―コーハ▯スにもとつ▯く考察―」『日本言語学会 第134回大会 予稿集』
松本曜(2009)	「多義語における中心的意味とその典型性--概念的中心性と機能的中心性」上智大学
森田良行(1989)	『基礎日本語辞典』角川書店
ゆもとしょうなん(1977)	「あわせ名詞の意味記述をめぐって」『東京外国語大学論集』27 東京外国語大学